

喫煙・COPD と COVID-19 肺炎

臨床諸問題・閉塞性肺疾患学術部会

石川県立中央病院呼吸器内科

西 耕一

2019年12月31日に中国武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は世界中に拡散したが、流行早期から喫煙や慢性閉塞性肺疾患（COPD）が重症化や死亡の危険因子であることが指摘された。2020年4月25日に本学会は「新型コロナウイルス感染症とタバコについて」の声明を発表し、1.喫煙は新型コロナウイルス肺炎重症化の最大のリスクであること。2.三密「密閉」「密集」「密室」の喫煙室は濃厚接触の場であること。3.家にいても家族・近隣への受動喫煙を増やさないこと。そして、4.自身と家族、同僚を守るために、この機会に禁煙することをいち早く広く国民に呼びかけた。2020年9月3日に厚生労働省が公開した「新型コロナウイルス感染症 COVID-19 診療の手引き第3版」では COPD は重症化のリスク因子、喫煙歴は要注意な基礎疾患と記載されている。

喫煙が COVID-19 の重症化や死亡リスクを高める機序については諸説報告されている。まず、喫煙者や COPD では新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の受容体である ACE-2 が気道や肺組織で増加しており、感染リスクが高まっている可能性が指摘されている。また、COVID-19 の重症化には自然免疫の低下やウイルス感染細胞に対する過剰な炎症反応が関与しているが、喫煙者では自然免疫が低下し、SARS-CoV-2 を体内から排除する能力が低下していることが指摘されている。また、COPD ではすでに全身性炎症が生じているため、COVID-19 罹患により過剰な炎症反応（サイトカインストーム）が生じやすいことも指摘されている。また、喫煙者や COPD では“がん”、心血管疾患および糖尿病などを合併していることが多く、これらの併存症自体が COVID-19 の重症化リスクとなっている。

今後コロナ禍が短期間に終息するとは思われず、改めて喫煙者には禁煙を呼びかけたい。